

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を实践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 石井記念愛染園
(ユニット名)	グループホーム あいぜん
所在地 (県・市町村名)	大阪市浪速区日本橋5丁目16-19
記入者名 (管理者)	管理者 福岡 悠作
記入日	平成 20年 5月 16日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、認知症を抱えても、その人らしく、人間らしく、豊かな日々を暮らして頂くように、ご入居者の暮らしを中心に考えた理念。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各職員を採用するにあたって、理念をもとに事業所の取り組みを伝えている。又、玄関に理念を掲示し、ご入居者・ご家族・職員がいつでも確認が出来る様にしている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族において、契約時に理念を説明し、基本的な生活サポートを伝えている。そして、家族会で活動報告を行い、理念に沿った具体的な生活サポートを伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	併設事業所であるため、地域の方が立ち寄って頂くような事は少ないも、毎日のように散歩や地蔵参りに行き、近隣の飲食店にも出向いている。馴染みの店主もいて、店に入りびたすることもある。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域が主催する、ふれあい喫茶や運動会・餅つき大会などに参加している。又、運営推進会議において、地域との具体的な触れ合いを話し合い、一つ一つ実施している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	最近では、浪速区施設連絡会に参加し、地域福祉に貢献出来る様に、事業所の活動範囲をひろげている。又、運営推進会議において、地域高齢者の暮らしサポートを具体的実現に向けて、意見交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義を理解している。それをもとに、今までの生活サポートを振り返り、全職員で自己評価し、共有しあっている。又、指摘があった内容においては、改善に努めた。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2ヵ月に1回開催している。そして2年目をむかえる。事業所の質向上のために、活動報告を中心に1年目を終え、様々な意見交流が行えた。2年目は、地域参加・地域貢献に向けて、一歩ずつ進み努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区社協が主催している施設連絡会に参加している。必要な事柄があれば、随時連絡するようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	それらの制度を活用しているご入居者がいる。その一連の申請から携わってきたので、必要な制度知識は備えている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修、施設外研修など、高齢者虐待について改めて学ぶように心掛けている。	○	全職員が高齢者虐待について、細かく把握しているとは、考え難いため、高齢者虐待に関する施設内研修や外部研修を積極的に取り入れたいと考える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各職員のスキルに応じて、研修参加を計画している。職員の教育・育成において今現在では、当現場を中心にして考えている。</p>	<p>○</p> <p>外部研修・内部研修など、十分な機会が設ける事が出来なかった。今年度は内部研修に力を注ぐ。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大阪市GHネットワーク・地域施設連絡会などに参加。サービスの質を向上する為の外部との交流にも努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>働きやすい職場を常に意識している。疲労が蓄積しないようにシフトを工夫したり、職員間の関係も良好を保てる様に努めている。又、仕事のモチベーション維持において、定期的に評価し、出来る限りの給料UPに努めている。そして、過剰な上下関係がないように図り、多くの意見交流できる職場を目指している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>上記同様</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から契約において、出来る限り本人の要望や気持ちを聞く・探るように努力している。また入居してからは、“YES or NO”と本人が選ぶ・伝えられる職員との関係作りを一番大切にしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>上記同様に、ご家族からも要望や気持ち・不安を聞きだせるように努力している。又、ご利用されるにあたって、“利用してよかった”と言って頂ける様に、日々努力している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要性に合わせて、必要なサポートを見極めて、支援に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が了解した上でのご利用のケースは少ない。入居お試しのよう、短期間の暮らしを働きかけ、生活を感じ知る事で本人が体験して納得出来る様に努めている。納得が得られない場合は、ご家族の協力を得て新しい暮らしができるように配慮している。努力が実ったケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	基本的に自立支援にむけてサポートしている。生活において、出来る・出来ない事を見極め、行える事はご自身で行って頂く様にサポートしている。喜怒哀楽が出せる環境とは安心・信頼があつてこそと思ひながら、サポートしています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に支え合う事を大切にしている。そのため、共にサポートする意味をご家族に伝える努力をしている。又ケースにおいては、ご家族の過剰な介護苦を配慮し、期間的に家族との距離を持った頂く事もあった。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症という脳の病気を家族に改めて詳しく知って頂くように、家族会を通じて説明はしている。認知症を理解する事により、本人との良い関係が保てると考えている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具は自宅で使い慣れた物を使用して頂く様にしている。園にこもらず、毎日のように近所にでかけている。又、一時的に自宅に帰ることや家族と共に過ごす時間を増やす事を推進している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	生活全般の活動において、入居者同士で助け合う機会作りに力を入れている。意思表示が困難な場合は、関係を崩さないように、職員が仲立ちし配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了となった場合でも、相談があればサポートしていきたいと考える。途中契約解除の事例はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者が求める生活に向けて、日々努力している。介護計画をご入居者と共に作成した事例もある。昔馴染みの暮らしをGHでも実現出来る様に、本人や家族から傾聴するように心掛けている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前から、情報収集に努め、昔馴染みの暮らしに一步でも近付ける様にしている。また日々の暮らしから、何を求め、何を行いたいのか、言葉で表現できない気持ちも探るように努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々のご入居者が抱える病気において、必要な観察事項に注意をはらっている。そして定期的にバイタルチェックを行い、日々の生活において、細かな変化を早期発見するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人に関しては、暮らしについての要望をお聞きし、家族においては定期的に家族面談を行い要望をお聞きしたり、協力の打診を行ったりしている。それらの内容を介護計画に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	2, 3ヶ月に1度、ケアカンファレンスを全職員で行っている。必要に応じては、ご家族・主治医などに連絡し、話し合いのもと対応を考えている。	○	介護計画をもとに、日々の暮らしサポートに努めてきたが、十分な配慮が出来ていないケースがある。配慮の増大から、職員の力量や人員が追いつけていないのが現実である。必要なサポートを改めて見極め対応していきたい。又、効果・成功しているサポートにおいては、介護計画に記載しなくても、継続して行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌を見ることで、近況が想像・把握出来る様に小まめに記載するように努めている。介護計画やケアカンファレンスにおいて、活用もしている。	○	申し送りの徹底がきちんと行えていないのが課題。今後、各職員に徹底意識と必要性を問い、改善に努めていく。
3、多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の診療所・歯科・眼科などの協力を得ている。法人内にも、病院・診療所・保育園・他介護事業もあり、協力体制を整えている。それらによって、心身ともに安心した生活環境が充分にあると考える。ご入居者やご家族からの安心の声も頂けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議において、民生委員に多大な協力を得ている。開設当初より月に2～3回、民謡教室のボランティアがあり、お世話になっている。地域に支えられている事を感じている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護関連の他のサービスを受けた事例はないが、当事業所の利用に当たっては、前ケアマネや利用していた他事業者と相談を交わし、協力を得てました。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議で協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各入居者の主治医には、多大な協力を得ている。緊急時や定期的な往診の支援を受け、ご本人・ご家族・私達職員も大いに助かっている。それが、生活の安心に大きく繋がっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライドを大切にし、対応の仕方に注意している。また、個人情報の取り扱いには注意し決まった書庫への保管に留意している。退職者にも、知りえた情報を外部に流さないように、指導している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者とのコミュニケーションを大事にし、その人に合わせて解り易く説明し、自己決定を尊重しながら安心して暮らしていただけるよう努力している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の意思や体調を大切に、共同生活の調和を図りながら日々楽しく生活できるように努めている。今すぐに要望に応えられない時には、素直にご入居者に相談する。出来ない事を職員側も、伝えられように、ご入居者との信頼関係を今後とも構築するように努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月訪問理容を利用したり、近隣の美容院を利用したりして整容に努めている。服装については本人の好みを考慮し清潔なものを着ていただくよう配慮している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に数回、調理を共に行い栄養のバランスや色目の工夫で楽しく食事ができるようにしている。準備から片付けまで職員と共に、楽しく会話しながら行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	今のところ喫煙者はいない。朝は毎日コーヒータイムを設け紅茶が好きな人には紅茶を出しゆつくり楽しんでいただいている。時々、近隣の喫茶店にも出かけて、好きなものを選んで頂いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	基本的には排泄用品を使用せず、自然排泄に努めている。意思表示が困難な方に関しては、日々の観察から、こちらが察知し配慮している。個々の排泄パターンを把握し定時誘導や声かけを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日の入浴を掲げていた。必要なサポート方法や体調などを考慮して、隔日の入浴実施となっている。要望があれば、出来る限り、その時に入浴を実施する。サポートによる入浴が主流になっているが、プライバシーを保護する事も強く抱いている。異性サポートを基本的には行わず、過剰な見守りにならない様に配慮している。	○	ボイラーなどの関係で、夜間20:00以降はお湯が出なくなる。そのため、夜の入浴が困難で要望に沿った入浴を実施できないため、ご本人にご理解を頂けるようにその時・その場で説明している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝前には室温調整し、照明に配慮してゆっくり眠れるよう努めている。灯りは自主的に消されている方が多い。起床に関しては本人に任せ、柔軟に対応している。又、十分な睡眠がとれる様にサポートしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯干し、洗濯物たたみ、調理手伝い、買物など生活全般において、ご入居者と共に行っている。歳をとっても活躍する場面や機会を求めている方が殆どで、やりがいを見出す事で喜びを感じている事を学んだ。カラオケやゲーム、散歩や外食など、個人や集団での楽しみ作りにも努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人の方は個人でお金を持たれている。所持されていない方は外出時、預り金の中から支払っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝、地藏参りを習慣にされている方や数人のグループで職員と共に近隣散歩したり、入居者全員で植物園や公園にでかける機会を多く設け計画実行している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	大阪市の公共施設や公園には、殆ど観賞や散歩に出かけた。職員と共に車椅子で公共交通を利用し御主人の墓参に行ったり、ご家族と共にバーベキューに出かけた事もある。近況としては、ご家族に行事参加を呼びかけたり、ご家族との外出も推進している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話は居室に繋ぎ直接お話していただいたり、入居者が公衆電話を利用して自由にお話しされたりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	併設型事業所の為、来園時間(夜間)の制限はあるが、いつでも来てもらえるように働きかけている。そして、宿泊できるスペースも確保している。気軽に足を運んで頂くように、雰囲気作りにも気をつけて接している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行っていない。しかし、身体に多大な影響をもたらすケースがあり、サポートが及ばない時にはご家族に事情を説明し、承諾のもと拘束した事があった。そして、拘束を無くすにあたってサポート方法を検討し、今現在は拘束するような事例はない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ご入居者の自由を奪う・問題行動を防ぐための施錠は行っていない。夜間はご入居者自ら居室の施錠をしている方が多い。又、夜間においては一般家庭と同様に玄関の施錠は行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通してご入居者の様子を観察し、所在確認に努めている。	○	想定外の行動をする方が居り、対応が間に合わない。今後は安全面を考え十分な配慮を行っていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	暮らしに必要な物品は普通に置いているが、ご入居者に対して身体的に危険を及ぼすものは、職員側で管理・保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	今まで起きた事故の要因を探り、再発防止に努めている。	○	件数的には事故は少ないも、より充分なリスクマネジメントを全体会議で共有する機会が少なかった。今後、改めて事故防止について、皆でより良いサポート方法を検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを作成して、活用している。又、協力医療機関との連絡も随時行っている。	○	早期対応・処置・判断において、十分に全職員が対応できるとは考え難い。今後、スキルアップに向けて内部・外部研修を行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人共同で、避難訓練を定期的に行っている。そして、地域の消防署にも協力支援を頂いている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族には、日頃の暮らしについて報告のもと、生活リスクについても随時、報告相談をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的なバイタルチェック、主治医の往診・看護師の訪問など、健康管理について、よりよい対応に努めている。入居者の細かな変化に気付けるよう、日々の状態や表情などの観察に力を注いでいる。そして、医療処置を受けるにあたって、適確な情報を伝える事にも力を注いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品情報や薬一覧表など、薬の作用を全職員が把握出来る様に整えている。緊急時は、主治医に直接連絡し、早急な対応・指示をうけて対応している。	○	全職員が薬の作用や副作用を完璧に把握しているかと問われると、充分でないと思う。薬管理の変動があれば、申し送りや各職員への直接伝達に力を注ぐ。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の対応事例も複数あり。現入居者の便秘パターンも把握していて、必要な対応は行っている。便秘によるトラブルはない。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週に1度、地域にある歯科の往診を受けている。また、歯科衛生士の口腔衛生指導も週に1度受けている。現場においては、食後にウガイを働きかけ、起床・就寝時においては、口腔ケアを実施している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養・水分管理が必要とされるご入居者においては、摂取量をチェックし対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内で感染症予防委員会を設置し参加。予防・防止に力を注いでいる。外部から来園した方には、手洗い消毒を行って頂いている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	法人内で給食委員会を設置し参加。食中毒の予防に関しても注意を払っている。毎食後、使用した食器類においては、加熱消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物に特別な工夫はしていない。安心できる生活空間や雰囲気大切にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光や緑が充分に取り入れられている建物作りなので、特別なものはしていない。居室空間においては、自宅で使い慣れた家具を持参して頂いたり、各ご入居者に合わせた空間は保っていると感じている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・談話室・各廊下においても、くつろげる空間の整備に努めている。ソファーや椅子に座り、談話が自然と生まれるように工夫して設置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所の取り付け家具はない。自宅で使い慣れた家具を持参して活用していただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室にはご入居者が調整できる、換気扇・冷暖房器具を設置している。調整が困難な方に関しては、状況に応じて職員が配慮している。詰所では冷暖房の集中管理が出来る様になっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的にはバリアフリーな建物となっているが、浴室とテラスにおいては、段差があり充分なものではない。そのため 手すり・職員の見守り、サポートなどで対応している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	カレンダーや時計、居室の名札など、時間や空間の認識に役立つようなものは設置している。又、各入居者に対しては個々に対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	各居室前にテラスがあり、洗濯干し場も設置している。周囲には花や緑を多く取り入れて観賞出来る様にしている。リビングのテラスでは家庭菜園、バーベキュー、お茶を交わす等のスペースを設けている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の
	②利用者の2/3くらいの
	③利用者の1/3くらいの
	④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある
	②数日に1回程度ある
	③たまにある
	④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と
	②家族の2/3くらいと
	③家族の1/3くらいと
	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)